

西芳寺の庭園には 120 種類の苔が生えており、「苔寺」の別名のほうが広く知られている。昔から今のように苔むした庭だったわけではなく、長い時間をかけて、特に江戸時代（1603～1868 年）に、徐々に苔が深くなっていき、現在のような姿になったと考えられている。寺の記録によると、夢窓疎石がこの寺を再建したとき、黄金池の中の島の地面は水面とほとんど同じ高さであった。長い年月の間に何度も洪水が起きたため、池の水位を下げるために池の底をさらい、さらった泥を島の上に積み上げていったことで、島の高さが高くなったとする説がある。時間を経て、その泥の上に苔が成長し、ベルベットのよう、緑豊かなテクスチャーで庭園全体が覆われるようになったのであろう。